

11月・12月の管理ポイント

土壌が乾燥しやすい季節です。土壌の乾燥が長期間続くと撥水物質が増え、ドライ症状が発生してしまいます。冬場は代謝や生理反応が低下しているため、ダメージが見えにくく見逃されがちです。春になってダメージが目立つようになってから対処しても回復は困難ですので、冬場も水管理に気を配り続けましょう。



冬季の乾燥対策

液肥とのタンクミックスに

グリーンシナジー

近年は非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、実際はトップシーズンにドライスポットが発生する最大の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題視されています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡ることによって利用効率が上がり肥料ムラを防ぎます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

張芝した箇所の乾燥対策には、スポット処理しやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

使用量：1~2ml/m²/月 散布水量：100ml~1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

自然な色調の着色剤

カラーメイトNEO M・D

カラーメイトNEOは、季節感を重視した自然な色調に仕上がる着色剤です。耐光性の高い顔料の粒子が鮮やかな緑色を演出し、耐水性の高い樹脂が色落ちを軽減します。色調の好みや目的によりM(明るい緑)とD(暗い緑)の2色から選ぶことが出来ます。地温・葉温を上昇させることにより、春季の立ち上がりを促進します。芝の色を美しく引き出すため、冬枯れする前の使用がおすすめです。

使用量：2ml/m² 希釈倍率：50~100倍 散布水量：100~200ml/m²

芝生の耐乾性

耐寒性を高めましょう

プランツコート

プランツコートで茎葉部をコーティングすることで、冬の乾燥害や霜によるダメージを軽減することが出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

散布薬量：1ml/m² 散布水量：100~200ml/m²

冬季のサッチの除去
土壌微生物の健全化

サッチ・マネージャーW

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低温期でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。

使用量：グリーン 0.25~0.5g/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²

貯蔵養分の補給と凍害対策

グリーンメカ

ベントグラス生育期の11月は糖類の消費量が多くなります。十分施肥しても日照不足で光合成が十分行われない場合、糖類の生産が追い付かなくなります。足りない消費分を補い、冬の貯蔵分も十分蓄えるために、グリーンメカで糖類やアミノ酸をたっぷり補給しましょう。貯蔵糖類を十分蓄えた芝は耐寒性耐凍性が向上し、来春の立ち上がりも良好になります。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²

病害予防に

グリンオキシラン水和剤

グリンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、年内最後の殺菌剤におすすめです。

使用量：ベントグラス 希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m²

ゴルフ場では作業効率化のため、肥料や農薬、浸透剤などの各種資剤を混合し、散布作業を行っています。ここでは、タンクミックスでの予期しないトラブルの例を交えて注意点をご紹介します。

タンクミックスは水を張ってから

マグネティックスターラー（攪拌機）を使用しながら、水1Lの散布混合液を作る場合...

○ 成功例



水を**全量充填**
↓
各種資材※を溶解、混合

均一な混合液ができた

※混合資剤(いずれも標準量)
・浸透剤
・殺菌剤
・殺虫剤
・栄養剤
・ストレス軽減剤

× 失敗例



水を**1/4~1/2充填**
↓
各種資材※を溶解、混合
↓
水を全量充填

一部凝集が生じ、
不均一な混合液ができた

これをストレーナーに通すと...



凝集体が残ってしまう
＝薬剤の効果低下、
資剤の無駄になってしまう

混合の注意点

要注意！

十分に水を入れてから混合

水をタンクに充填しながら各種資材を混合すると、一時的に**高濃度の混合液**が生じてしまい、予期せぬトラブル(上記失敗例)を生じてしまう可能性があります。

少量の水に溶解してから混合

各剤をバケツなどの**少量の水で溶解(一次希釈)**させてからタンク車で混合すると、トラブルが起きにくくなります。

農薬混合の順番は「テニス」

農薬の混合は、「**展着剤(界面活性剤)**」→「**乳剤**」→「**水和剤**」の順番で、「**テ・ニ・ス**」と覚えましょう。

資剤の注意書きをよくチェック

上記方法で混合しても、**薬剤や資剤ごとの相性**によって、凝集や効果の低減が生じる可能性があります。各剤の注意書きを確認することが重要です。

近年、人手不足に伴い作業効率を優先してしまいがちです。しかし資剤混合のトラブルで資剤や時間を無駄にしてしまうのは避けたいところです。特に少量散布の場合は、資剤が高濃度になりやすいので、注意が必要です。各作業員の混合作業の習熟に、本報をお役立ていただければ幸いです。

※ご紹介した資剤の混合は一般的な性質ではありますが、全ての資剤に当てはまるとは限りません。